

令和3年度 看護学部1学年シラバス（前期・通年）

<前期>

英語ⅠA	…P1～
英語ⅠB	…P6～
フランス語	…P14～
ドイツ語	…P19～
スペイン語	…P26～
中国語	…P36～
心理学	…P42～
生活と科学	…P48～
死生観の歴史	…P55～
女性学	…P62～
倫理学	…P68～
自然科学（生物）	…P75～
数学	…P81～
文学	…P84～
音楽	…P90～
体育Ⅱ	…P97～
行政と医療・福祉・保健	…P102～
社会と法（日本国憲法を含む）	…P108～
人体解剖生理学Ⅰ	…P115～
生化学	…P121～
看護学の基本Ⅰ	…P127～
コミュニケーションに関する技術	…P133～
看護技術とアセスメントⅠ	…P139～

※自然科学は1つの科目で「生物」「物理」「化学」の3分野の講義を行います（3分野全て必修です）（「物理」と「化学」は後期に行います）。

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）： 英語 I A (English IA)

教員名：Régis de Lavison（レジス・ドラビゾン）

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：クラス形式には、会話の練習、ペアワークとグループワーク、クラスへのプレゼンテーションが含まれます。世界に関するトピックのディスカッションも、クラスの重要な部分を形成します。

学習目標：このクラスの主な目的は、学生の日常英語における能力を開発することです。これには、基本的な文法の見直し、会話パターンの練習、そしてクラスディスカッションが含まれます。英語コミュニケーションのための会話とリスニングスキルの開発に焦点を当てます。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォ		

			一マルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：CHALLENGE BOOK 4, ISBN (978-4-947736-55-0)

著者 Helene Jarmol Uchida 出版社 Little America

参考書：なし

成績評価方法：出席＋交流活動(20点), リポート(HW)X4回(20点), 期末試験(60点)

その他(メッセージ等)：このクラスを受講するには、出席と参加が必要です。成績評価の対象には、テスト、参加、出席が含まれます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	オリエンテーション	クラス紹介と説明
第2回	教科書 7~8 ページ	(説明と実践) 宿題: 10 ページ
第3回	プレゼンテーション 1	「自己紹介」
第4回	教科書 9~10 ページ	(説明と実践) 宿題: 12 ページ
第5回	プレゼンテーション 2	「友人の紹介」
第6回	教科書の 11~12 ページ	(説明と実践)、宿題: 14 ページ
第7回	プレゼンテーション 3	「私の家族のプレゼンテーション」
第8回	教科書 13~14 ページ	(説明と実践)、宿題: 16 ページ
第9回	プレゼンテーション 4	「お気に入りのスポーツ」
第10回	教科書 15~16 ページ	(説明と実践)、宿題: 22 ページ
第11回	プレゼンテーション 5	「私のお気に入りのレストラン」
第12回	教科書 22 ページ	(説明と練習)、宿題: 23 ページ
第13回	プレゼンテーション 6	「最高の修学旅行」
第14回	文化ポイント 1 「握手」	ディスカッションと Q&A
第15回	プレゼンテーションとグループ練習のレビュー	
第16回	教科書 23 ページ	(説明と実践)、宿題: 25 ページ
第17回	プレゼンテーション 7	「学校のクラブ」
第18回	教科書 24~25 ページ	(説明と実践)、宿題: 27 ページ
第19回	プレゼンテーション 2	「一番好きな曲」
第20回	教科書の 27 ページ	(説明と実践)、宿題: 28 ページ
第21回	プレゼンテーション 3	「私の家族のプレゼンテーション」
第22回	教科書 28 ページ	(説明と実践)、宿題: 29 ページ
第23回	プレゼンテーション 4	「一番好きな歌手」
第24回	教科書 29 ページ	(説明と実践)、宿題: 30 ページ
第25回	プレゼンテーション 5	「一番良かったコンサート」
第26回	教科書 30 ページ	(説明と練習)
第27回	プレゼンテーション 6	「最高の修学旅行」
第28回	文化ポイント 2 「旅行のチップ」	ディスカッションと Q&A
第29回	プレゼンテーションの復習 とグループ練習 1	
第30回	プレゼンテーションの復習 とグループ練習 2	

区分名： 表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 IB (English IB)

教員名： Peter Bryan McCann（ピーター・ブライアン・マカーン）

開講年次： 1年次，学 期：2021年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：During their six years of English studies in junior and senior high schools most students did not get many chances to speak English or use English for practical purposes. This course will aim at giving students confidence in using English for communicating. Students will be introduced to a variety of real-life situations. The class will be conducted entirely in English

学習目標：The course will aim at teaching the students the basic daily conversational skills by being given the chance to practice language through communicative tasks, build their language strategies, and find their way to becoming more comfortable in the real world. Focus will be placed on listening comprehension and oral production. Many listening activities and speaking activities (role play and information gap activities) will be proposed during the course. Review and reinforcement of English language structures will help towards smoother and more effective communication. Students will be asked to participate actively in the class to make the most out of the course.

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	— 修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はある

	人々との コミュニ ケーショ ン		る。		が、単位認 定に関係 ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームで のコミュニ ケーシ ョン	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機 会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せるこ
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		

		④	看護の基本となる科目		とが単位認定の要件である
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト : Face2Face Pre-Intermediate Student' s Book, Second Edition. Chris Redston & Gillie Cunningham. CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS

参考書 :

成績評価方法 : A written test will be given at the end of the course that will account for 70% of each student' s total score. Attendance will account for 20%, and for the final 10%, students will be assessed on their classroom participation throughout the course.

その他 (メッセージ等) : Please remember that active participation in class is essential in order get the most out of it. Also, if you have any questions, please feel free to contact me at any time.

授業内容 (学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	1A: Life stories	Vocabulary: introduction questions, common responses.
第2回	1B: Super commuters	Vocabulary: questions about travel, work Grammar: subject questions.
第3回	1C: Time off	Vocabulary: free time activities Grammar: frequency adverbs.
第4回	2A: Beginnings	Vocabulary: past time phrases Grammar: past simple
第5回	2B: How we met	Vocabulary: relationships Grammar: past continuous
第6回	2C: Coincidences	Vocabulary: adjectives, connecting words
第7回	3A: Getting qualified	Vocabulary: employment Grammar: <i>have to/had to</i>
第8回	3B: Job-hunting	Vocabulary: looking for a job Grammar: present Continuous vs Simple
第9回	3C: What a job!	Vocabulary: world ending - noun endings.
第10回	4A: Lookalikes	Vocabulary: types of film, past participles. Grammar: present perfect - life experiences.
第11回	4B: My music	Vocabulary: types of music Grammar: present perfect - <i>Have you ever...?</i>
第12回	4C: TV or not TV?	Vocabulary: TV nouns and verbs, <i>-ed</i> and <i>-ing</i> adjectives.

第 13 回	5A: A crowded planet	Vocabulary: the environment Grammar: <i>will</i> for prediction, <i>might</i> .
第 14 回	5B: Never too old	Vocabulary: collocations Grammar: <i>be going to</i> - plans and ambitions.
第 15 回	COURSE REVIEW	
第 16 回	6A: Teenagers	Vocabulary: adjectives - character Grammar: comparatives, quantifiers.
第 17 回	6B: Roles people play	Vocabulary: relationships Grammar: superlatives
第 18 回	6C: Family Business	Vocabulary: adjectives and prefixes: <i>un</i> , <i>in</i> , <i>im</i> , <i>dis</i> .
第 19 回	7A: 50 places to go	Vocabulary: travel Grammar: Present continuous for future arrangements
第 20 回	7B: What are you taking?	Vocabulary: things we take on holiday Grammar: quantifiers, possessive pronouns
第 21 回	7C: Wish you were here	Vocabulary: phrases with <i>go</i> .
第 22 回	8A: Home sweet home	Vocabulary: describing your home Grammar: present perfect with <i>for</i> and <i>since</i> .
第 23 回	8B: Meet the parents	Vocabulary: going to dinner Grammar: <i>should</i> , <i>shouldn't</i> , <i>must</i> , <i>mustn't</i> .
第 24 回	8C: Cultural differences	Vocabulary: common verbs; verb patterns
第 25 回	9A: Problems, problems	Vocabulary: everyday problems Grammar: first conditional, future time clauses
第 26 回	9B: Sleepless nights	Vocabulary: adjectives - feelings Grammar: <i>too</i> , <i>too much</i> , <i>too many</i> , <i>(not) enough</i> .
第 27 回	9C: Noisy neighbours	Vocabulary: phrasal verbs
第 28 回	10A: The collectors	Vocabulary: verbs used in the passive Grammar: present/past simple passive
第 29 回	10B: Shopping trends	Vocabulary: words with <i>some-</i> , <i>any-</i> , <i>no-</i> and <i>every-</i> Grammar: <i>used to</i>
第 30 回	COURSE REVIEW	

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）： フランス語 （français débutant）

教員名：Régis de Lavison（レジス・ドラビゾン）

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期後期 ， 必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：挨拶、ウォーミングアップ、国際交流に役立つ会話、単語、文法、などの演習。

学習目標：会話中心で、フランス語はどういう言葉で、フランスやカナダはどんな国なのかについて理解することがこの授業の第一目標です。

やさしい文法を使って多くの単語を学びます。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		

			照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： **Ensemble** (KOHGAKUSHA)

参考書：

成績評価方法：出席＋交流活動(20点)、小テスト&レポート X 16回(80点)

その他(メッセージ等)：宿題は毎週1時間以内が必要です。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	会話1(p.7) 国籍、職業	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第2回	同上＋数字、自己紹介	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第3回	会話2(p.15)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第4回	同上＋数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A

第5回	会話3 (p.27)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第6回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第7回	会話4 (p.36)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第8回	同上+数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第9回	同上+12個の質問ゲーム	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第10回	会話5 (p.44)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第11回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第12回	会話6 (p.49)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第13回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第14回	p.53, ex. 73, 74, 75, 76, 77	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第15回	会話7 (p.55)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第16回	同上+ex. 90	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第17回	会話8 (p.67)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第18回	会話9 (p.76)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第19回	同上+第一グループの動詞の活用・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第20回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第21回	会話10 (p.92)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第22回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第23回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第24回	p.106の文法	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第25回	会話11 (p.104)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第26回	会話12 (p.117)+第3グループ動詞と代名動詞	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第27回	同上・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第28回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第29回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第30回	小テスト	まとめ

区分名： 表現力を培う（コミュニケーション）

科目名（英語名称含む）：ドイツ語（German）

教員名：九頭見和夫

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期～後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：グローバル化している世界の中で、私たちがしなければならないことは、世界を知ることだと思います。この授業では、この視点に立って、明治時代以降日本と深い関わりを持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語圏の国々について学習します。

学習目標：1) 文章を正確に発音し、内容を理解することができる。

2) 短い文章を作り、相手に自分の考えを伝えることができる。

3) ドイツ語圏の生活や歴史等に興味を持ち、学習することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	—	修得の機 会が ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセス メントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：第1回の授業の時に指示します。

参考書：授業の中で紹介します。

成績評価方法：全授業回数の3/4以上の出席を評価の条件とします。

その上で試験の成績、質問への回答など授業への積極的な参加、小テスト、レポート等を総合して最終成績を決定します。

詳細については1回目の授業の際に説明します。

その他（メッセージ等）：グローバル化している世界の中では、福島とか、日本とか限定された範囲ではなく、広く世界に目を向けることを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画

第2回	ドイツの概説（1）	ドイツ連邦共和国について
第3回	ドイツの概説（2）	ヨーロッパの言語とドイツ語
第4回	ドイツ語の発音（1）	アルファベットと発音の規則
第5回	ドイツ語の発音（2）	母音の発音
第6回	ドイツ語の発音（3）	子音の発音
第7回		動詞の現在人称変化（1） ドイツの歴史（1945年以降）
第8回		ドイツ語の文型 名詞の性、数、格
第9回		定冠詞の変化 グリム童話 中間試験について
第10回	中間試験	授業の理解度をみる
第11回		不定冠詞の変化、ドイツの教育制度
第12回		名詞の複数形
第13回		動詞の現在人称変化（2）
第14回		命令形、ドイツ人の余暇・休暇
第15回	前期のまとめ	前期末試験について
第16回	前期の復習	前期に学習したことの理解度の確認
第17回		定冠詞類の変化、ドイツのビール
第18回		不定冠詞類の変化、ドイツのサッカー
第19回		人称代名詞、ドイツの交通
第20回		数詞
第21回		前置詞、簡単な日常会話（1）
第22回	授業のまとめ	中間試験について 簡単な日常会話（2）
第23回	中間試験	これまでの授業の理解度をみる
第24回		話法の助動詞、医学用のドイツ語（1） 現在完了形の文。 医学用のドイツ語。
第25回		未来形の文、医学用のドイツ語（2）
第26回	動詞の三基本形（1）	規則変化動詞 医学用のドイツ語（3）

第 27 回	動詞の三基本形 (2)	不規則変化動詞 医学用のドイツ語 (4)
第 28 回	動詞の三基本形 (3)	不規則変化動詞 医学用のドイツ語 (5)
第 29 回		現在完了形の文 医学用のドイツ語 (6)
第 30 回	後期のまとめ	後期末試験について

区分 表現力を培う

科目名 スペイン語 (Spanish)

教員名 Tor Duffin (トア ダッフイン)

開設学期 2021 年度 通年

必修/選択 選択

授業形態 演習 , 単位数 2 単位, 時間数 30 時間

授業の概要 「スペイン語はじめの一步」

一般目標

- To introduce the basics of Spanish conversation, grammar and phonetics.
- To enable students to communicate and understand Spanish at an everyday, survival level.
- To cultivate an interest in Spain, its language and culture, and in the position of Spanish as a widely-spoken, global language.

行動目標

Students will be given exposure to the basic structures of the language through a variety of classroom tasks. Supplementary handouts and flashcards, regular conversation activities, written exercises, and frequent reviews of previous lesson material will enable students to practise what they have learned.

The pace of lessons can be adjusted according to students' overall progress.

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
			態度、習慣、価値観を積極的

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	○	に示せることが単位認定の要件である。
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と 自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基礎となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を		

			認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場 に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤なる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

授業内容（学習項目）

第 1 回	Saludos Países hispanohablantes El alfabeto; los números 1~20	<i>Hello, nice to meet you! What's your name?</i> Spanish-speaking countries The Spanish alphabet; numbers 1~20
第 2 回	Expresiones útiles para la clase (1) <i>¿Cómo estás?</i> U.1 <i>Mira, hay una cafetería aquí (1)</i>	Useful classroom phrases (1) <i>How are you?</i> Vocabulary: Ordering in a café Grammar: Singular & plural nouns; masculine & feminine nouns
第 3 回	Expresiones útiles para la clase (2) <i>Mira, hay una cafetería aquí (2)</i> Los números 21~30	Useful classroom phrases (2) Numbers 21~30
第 4 回	U.2 <i>¿Hablas español? (1)</i> <i>¿Dónde vives?</i>	V: Languages; academic subjects G: Regular <i>-ar/-er/-ir</i> verb endings; pronouns <i>Where do you live?</i>
第 5 回	<i>¿Hablas español? (2)</i> Los meses; las fechas	<i>What's the date today?</i> <i>When's your birthday?</i>
第 6 回	U.3 <i>Soy japonés (1)</i> <i>¿De dónde eres?</i>	V: Countries & nationalities G: <i>ser</i> vs <i>estar</i> (to be) <i>Where are you from?</i>
第 7 回	<i>Soy japonés (2)</i>	
第 8 回	U.4 <i>Voy a la universidad en tren (1)</i>	V: Saying where you're going G: <i>ir</i> (to go); possessive pronouns
第 9 回	<i>Voy a la universidad en tren (2)</i> <i>¿Dónde está...?</i>	G: Prepositions of place <i>Where is...?</i>
第 10 回	U.5 <i>Quiero comer paella (1)</i> Los días de la semana	V: Expressing what you want/intend to do G: Irregular verbs Days of the week

第 11 回	<i>Quiero comer paella (2)</i> <i>¿Tienes hermanos?</i> Los números 31~100	G: <i>tener (to have)</i> <i>Do you have any brothers or sisters?</i> Numbers 31~100
第 12 回	U.6) <i>Me gusta la música Latina (1)</i> <i>¿Te gusta(n)...?</i>	V: Likes & dislikes G: <i>gustar (to like)</i> , objective pronouns <i>Do you like...?</i>
第 13 回	<i>Me gusta la música Latina (2)</i> <i>Me duele la cabeza</i>	V: Health problems – parts of the body
第 14 回	U.7) <i>Viajé a España el mes pasado (1)</i>	V: Past travel experiences G: Simple past tense (regular verbs)
第 15 回	<i>Viajé a España el mes pasado (2)</i>	V: Weather
第 16 回	U.8) <i>No pude ir a ningún sitio (1)</i> <i>¿Qué hiciste...? ¿Cuándo fuiste...?</i>	V: More travel experiences G: Simple past tense (irregular verbs) <i>What did you do...? When did you go...?</i>
第 17 回	<i>No pude ir a ningún sitio (2)</i>	
第 18 回	U.9) <i>Pasaba las vacaciones tocando el piano (1)</i> <i>¿Cuál es más...?</i>	V: How you spent your recent free time G: Imperfect tense; comparatives <i>Which is more...?</i>
第 19 回	<i>Pasaba las vacaciones... (2)</i>	
第 20 回	U.10) <i>Me levanto a las seis de la mañana (1)</i> <i>¿A qué hora...?</i>	V: Daily routines & times G: Reflexive verbs <i>What time do you...?</i>
第 21 回	<i>Me levanto a las seis de la mañana (2)</i>	
第 22 回	U.11) <i>¿Has estado alguna vez en España? (1)</i> <i>¿Has...?</i>	V: Past participles G: Present perfect tense <i>Have you...?</i>
第 23 回	<i>¿Has estado alguna vez en España? (2)</i>	
第 24 回	U.12) <i>Iremos de excursión a Segovia (1)</i>	V: Upcoming plans G: Future tense

	<i>¿Que harás...?</i>	<i>What will you do...?</i>
第 25 回	<i>Iremos de excursión a Segovia (2)</i>	
第 26 回	U.13) <i>Te recomiendo que visites el Parque Güell (1)</i>	V: Making recommendations G:
第 27 回	<i>Te recomiendo que visites el Parque Güell (2)</i>	
第 28 回	U.14) <i>Oiga, por favor (1)</i>	V: Asking for directions G:
第 29 回	<i>Oiga, por favor (2)</i>	
第 30 回	COURSE REVIEW / TEST	

授業の進行状況によっては内容を変更する場合があります

テキスト

¡Mira, la nueva estrellita! (Kuribayashi, Yasaka, Okami, Colmena), EDITORIAL ASAHI.

栗林ゆき絵他『新・エストレリタースペイン語入門コース』朝日出版社、2019年

上記テキストの音声サイト <http://text.asahipress.com/free/spanish/estrellita/index.html>

参考書

鼓直他編『プログレッシブスペイン語辞典カレッジエディション』小学館、2016年

岡本信照『スペイン語のしくみ<<新版>>』白水社、2014年

成績評価方法

単位の評価対象となるのは授業回数の2/3以上を出席している者。それを下回った場合は自動的に不合格となります。また、語学は出席率と成績がほぼ比例しますので、欠席（忌引き、インフルエンザなどによる出席停止を除く）1回につき2点を減点します。

Students are assessed and given a total score on the following basis:

Final written test: 60% of the total; class participation: 20%; attendance: 20%.

教員から学生へのメッセージ

スペイン語圏が持つ奥深い社会へ文化に関心を持ってもらえれば幸いです。また、一般教養

科目（この語学を含めて）はみなさんが今まで持っていた「知のものさし」を組み立てなおす良い機会です。語学は「テクネー」（ギリシア語で「体が覚える学問」）の領域に属しますので一夜漬けでは単位は取れても役には立たないでしょう。単位をとることが最終目標ではありませんので、毎日少しでも（授業外で一日 30 分。目標としては週 4 時間）勉強することをお勧めします。皆さんは将来、他の人の命を守る職業に就くのでしょうから、他分野の業種の方と仕事をする事多いでしょう。多くのことに早く気づいてくれることを期待します。

Please participate fully in class, and don't worry about making mistakes. I'll be happy to answer any questions you have, so please don't hesitate to ask. Let's enjoy the course together!

区分名： 表現力を培う

科目名：中国語 (Chinese)

教員名：池澤 實芳

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期～後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：この授業は、基礎的な中国語の訓練を行なうことと、中国の社会や文化への興味・関心を持つ態度を身につけることにより、基礎的な中国語コミュニケーション能力の修得を目的とします。

学習目標：中国語の発音、基本的な文法事項・語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して、中国語の基礎を修得するとともに、あわせて視聴覚教材などを通して、中国の社会や文化への興味・関心を持つ態度の養成を学習目標とします。

以上の学習目標を達成するためのより具体的な学習目標は、以下の5点の修得です。

- (1) ピンインを付した基礎的な語彙や簡単な文を正確に発音できる。
- (2) 基礎的な語彙や短い文を聞いて理解し、簡体字やピンインで書き取ることができる。
- (3) 平易な日常会話ができる。
- (4) 目的にあわせて中国語の簡単な文を作ることができる。
- (5) 中国の社会や文化について、視聴覚教材などを通して、断片的ながら初歩的・基礎的な知識を修得するとともに、中国への知的関心を持つ態度を身につけることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識

	礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		を示せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	”
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：陳淑梅、劉光赤著『しゃべっていいとも中国語 中西君と一緒に中国へ行こう！』（朝日出版社）

参考書：適宜教室で紹介します。

成績評価方法：テキストの練習・ドリルのレポートなど（70%～100%）＋定期試験（30%～0%）により、総合的に評価します。諸要因により定期試験を実施しない場合もあります。

その他（メッセージ等）：実際の授業の進度は、さまざまな要因により、シラバス通りに

実施できないことがあります。以下の授業内容（学習項目）の進度は、一応の目安と考えて下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	導入・第1課	中国語ガイダンス、発音(1)：音節、声調
第2回	第1課	軽声、第3声・変調、不の変調
第3回	第1課、第2課	第1課ドリル、発音(2)：単母音
第4回	第2課	複母音、eの発音
第5回	第2課、第3課	第2課ドリル、発音(3)：第3課・子音
第6回	第3課	子音(1)、ドリル
第7回	第4課	発音(4)：子音(2)そり舌音
第8回	第4課	鼻音、ドリル
第9回	第5課	ポイント1名前の言い方、ポイント2名前の尋ね方
第10回	第5課	本文、ドリル
第11回	第6課	ポイント1, 2、本文
第12回	第6課	ワードバンク、ドリル
第13回	第7課	ポイント1, 2、本文
第14回	第7課	ワードバンク、ドリル
第15回	まとめ	第1課～第7課の復習
第16回	第8課	ポイント1, 2、本文
第17回	第8課	ワードバンク、ドリル
第18回	第9課	ポイント1, 2、本文
第19回	第9課	ワードバンク、ドリル
第20回	第10課	ポイント1, 2、本文
第21回	第10課	ワードバンク、ドリル
第22回	第11課	ポイント1, 2、本文
第23回	第11課	ワードバンク、ドリル
第24回	第12課	ポイント1, 2、本文
第25回	第12課	ワードバンク、ドリル
第26回	第13課	ポイント1, 2、本文
第27回	第13課	ワードバンク、ドリル
第28回	第14課	ポイント1, 2、本文
第29回	第14課	ワードバンク、ドリル
第30回	まとめ	第8課～第14課復習

区分名： 人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：心理学（Psychology）

教員名：三澤文紀、竹林由武（医学部健康リスクコミュニケーション学講座）、小林智之（医学部災害こころの医学講座）

開講年次：1年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：

心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」を理解する方法やそれを用いた方法を学ぶ。

学習目標：

- 1) 心理学の様々な考え方や知見があることを理解し、それぞれの特徴を理解している。
- 2) 心理学の主要な用語の意味について、授業の内容をもとに正しく答えることができる。
- 3) 人の行動や心理を心理学的視点から考えることに関心を持っている。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位

				認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特定のテキストは使用しない。講義内容に関する資料を配付する。

参考書：長田久雄（編） 看護学生のための心理学－第2版－ 医学書院 2,400円＋税
その他、授業内で適宜紹介する。

成績評価方法：前期中の小テストや各種レポート、期末試験、出欠状況、授業態度等によって総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：心理学の多様な考え方を学びましょう。受講生には積極的な学び

の姿勢を求めます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	心理学とは/記憶	心理学の概説/記憶のモデル
第2回	性格・知能	性格の類型論・特性論、知能テスト
第3回	動機づけ	内発的動機づけ、自己効力感、欲求の五段階説
第4回	発達1	乳幼児期・児童期
第5回	発達2	青年期
第6回	発達3	成人期・老年期
第7回	社会心理	対人認知、コミュニケーション、援助
第8回	精神分析	無意識、心の構造、防衛機制
第9回	交流分析1	自我状態、交流パターンの分析
第10回	認知行動療法1:基礎と行動的技法	エクスポージャー法、問題解決技法、行動活性化
第11回	認知行動療法2:認知的技法	認知再体制化、行動実験、マインドフルネス
第12回	交流分析2/クライアント中心療法1	交流の変更/自己一致
第13回	クライアント中心療法2	共感的理解、傾聴 ※小テスト
第14回	家族療法	全体性、円環的認識論、解決志向アプローチ
第15回	ストレス	ストレスのモデル、コーピング、バーンアウト

区分名：人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：生活と科学（Human Life and Environmental Sciences）

教員名：立柳聡

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：日本人の生活のあり方を基礎付けたものとは何か、それに根ざして日々の生活の中で育まれてきた日本人の様々な生活知に注目し、その背景やそれらが生み出した生活の特色とみられることを探究していく。

学習目標：

一般目標；1）日本人の生活の特色を生み出してきたものとは何か、わかるようになる。
2）文化や社会のあり方と生活、健康、病気、障がいとの関わりがわかるようになる。

行動目標；1）農業、特に、穀物の栽培が、一般にどんな特色を有する文化や社会を生み出すか、理解できる。

2）日本人の死生観、生命観、人生観、病気観、障がい観が、どのような背景の下に形成され、特色を有するか、理解できる。

3）生活の諸側面、特に、食生活のあり方と健康との相関を考察できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：必要に応じ、順次、プリントを配布します。

参考書：講義を踏まえ、適時、紹介していきます。

成績評価方法：

- 1) 出席状況、フィードバックペーパーとレポートの内容、各種の減点によって、総合的に判定します。詳細は開講時に説明します。
- 2) 欠席された場合は、その日の講義の要点をまとめた自己学習報告書を所定の日までに提出していただきます。万一未提出となった場合は、減点とします。なお、内容に問

題がある場合は、必要に応じ、個別の呼び出しをさせていただき、問題点の指導に当たります。

- 3) 科目担当者の判断として、レポートの再提出の機会は設けません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングと思ってほしいと期待です。
- 4) 万一、不合格となった場合は、11月に特設講座を開設し、再履修していただきます。ゼミナールか講義に代替する課題に取り組んでいただき、鍛えます。その上でレポートを提出していただき、12月に成果を評価し、合否判定を行います。これでも不合格となった場合は、1月より改めて特設講座を開設して、最履修していただきます。その上でレポートを提出していただき、2月に成果を評価し、合否判定を行います。なお、これをもってラストチャンスといたします。
- 5) その他、諸々の詳細は、開講時に説明します。

その他（メッセージ等）：

- 1) 気楽、安易、暢気な態度には厳しく措置します。常に適度な緊張感を携えて授業に出席したり、レポート等に取り組んでください。
- 2) 命に向き合うに相応しい人間のあり方に常にこだわり、講座の運営に当たります。
- 3) 私語、無断での授業中の中抜けなどに対しては、厳しく措置します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション、 並びに、文化と生活知	大学での学び方を指導します。 文化、生活知とはどのようなものか講じます。
第2回	日本人の生活の基盤を 築いた生業	生活知の凝縮とも言うべき代表的な年中行事を例に、日本人の生活の仕方に潜むこだわりやその背景をあぶりだす作業の触りをご紹介します、日本人の生活知の多くが農業に由来していることを明らかにすると共に、本講座において基調となる思考について講じます。
第3回	農耕文化の一般的特色	農業の始まり、穀類の栽培がもたらしたもの： 定住・食料保存・時間的規則性など、世界の農耕文化に共通性の高い特色を講じます。
第4回	農耕文化の一般的特色・その2	前回の続きを講じます。
第5回	農耕社会の一般的特色	互助協同・分業・階層化： 農業を生業とする人々の社会にみられる共通性の高い特色とはどのようなものか講じます。

第6回	農耕社会の一般的特色・その2	前回の続きを講じます。
第7回	定住生活と健康・衛生	定住という生活の仕方は、健康や衛生の保持にも重大な影響をもたらしました。現代人の健康問題も射程に置きながら、特論的にその細部を講じます。
第8回	日本人の自然観1	時・空間の捉え方： 日本人は、日々の生活の時間や場面をどのように規則的に捉えてきたかを講じます。
第9回	日本人の自然観1-2	前回の続きを講じます。
第10回	日本人の自然観2	人生観・死生観・子ども観： 日々の生活の時間や場面の捉え方が、生命の捉え方にも大きな影響を与えているとみられることを講じます。
第11回	日本人の自然観2-2	前回の続きを講じます。
第12回	日本人の自然観3	植物観： 日本人は生活知としてどのような生命観を築いてきたのか、それを考える第一歩として、身近な植物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第13回	日本人の自然観4	動物観： 日本人は身近な動物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第14回	日本人の自然観4-2、並びに、オリエンテーション	前回の続きを講じます。 レポートの課題を発表すると共に、グループワークによるレポート作成について指導します。
第15回	日本人の人間観	障害者観・病気観： 日本人は、生活知として人間や病気、健康をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを、障がいを負った人たちに対する捉え方を例に講じます。

区分名：人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：死生観の歴史（History of views on life and death）

教員名：末永 恵子

開講年次：1年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：選択

授業形態：講義，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：少子超高齢社会を迎えた日本では、いままでになかった勢いで、たとえば女性観、男性観、家族観、職業観、宗教観などが変化しています。何か確固とした理想的な生き方といったものは見つけにくくなってきました。そのようななかで、人間の生や死についての関心はとても高まってきています。

しかも、私たちは巨大な災害によって多くの人命が失われる事態に遭遇しました。「生きる意味とは何か、死とは何か」という問題を探求せざるをえなくなっています。死生観とは、人間の生と死をどのように把握し、どのようにこの問題と向き合うかといった考察です。古今東西の宗教や思想家がこの問題についてさまざまな考察を行いました。

この授業では、そのような死生観をふりかえり、さまざまな角度からこのテーマについて考えます。生と死に向き合う看護領域の営みにも参考になる授業を目指しています。

学習目標：

【一般目標】古今東西の宗教や思想の死生観を把握するとともに、その死生観の社会的歴史的背景についても理解し、さらに現代の生と死の問題とも関連させて考察する態度を身につける。

【行動目標】

- 1 各宗教および思想家の死生観を文献資料や映像から把握することができる。
- 2 伝統的死生観と現代人の死についての意識とを比較し、論じることができる。
- 3 死生観の考察を通して、自己の死生観を育むことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		習得の機会はあるが単位認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	習得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	
--	--	---	-------------------------------------	--

テキスト：指定しない。

参考書：以下を参考書とする。

- 1, 島藺進ほか『死生学』1～5 東京大学出版会、2008年
- 2, 立川昭二『日本人の死生観』筑摩書房、1998年
- 3, 波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞社、2004年
- 4, 佐藤弘夫『死者の花嫁 葬送と追想の列島史』幻戯書房、2015年
- 5, 金菱清(ゼミナール)編『呼び覚まされる霊性の震災学—— 3・11 生と死のはざままで』新曜社、2016年

成績評価方法：授業への参画態度（質問・意見の表明25点）、ミニレポート（5×15＝75点）の内容を総合し、成績を決定する。

その他（メッセージ等）：死生観は生きていく間に他者（死者と生者）との関係をどのように構築していくかという課題を問いかけます。自分はどのように他者とつながるのか、大きな問いをもちつつ、考察を重ねてまいりましょう。授業が積極的な議論の場となることを願っています。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	導入	ガイダンス：討論方法・レポート作成方法など
第2回	現代の死を考える	映画『おくりびと』、死者と生者、葬送の意義
第3回	看取りを考える	告知、悲嘆、死者とのつながり
第4回	仏教の死生観1	チベット仏教、輪廻転生
第5回	仏教の死生観2	原始仏教と現代仏教
第6回	仏教の死生観3	日本的仏教
第7回	道教の死生観	不老不死への道
第8回	儒教の死生観	沈黙の宗教、祖先祭祀
第9回	神道の死生観1	記紀神話 国学
第10回	神道の死生観2	国家と宗教 靖国神社
第11回	キリスト教の死生観1	旧約聖書
第12回	キリスト教の死生観2	キリスト教の成立と死生観
第13回	イスラム教の死生観1	イスラム教の基礎知識
第14回	イスラム教の死生観2	クルアーンの死生観

第15回	総括	総合討論
------	----	------

区分名： 人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：女性学（Women's Studies ）

教員名：板倉 有紀

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期 ，必修／選択：選択（助産師履修者は必修）

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：15時間

概要：

わたしたちは、自分が「女性であること」「男性であること」を、この二分法も含めて、固定的で本質的なものとして、疑いをさしはさまないことが多い。しかし実際は、ひとが女性もしくは男性になる／であるためには、発生的にはもちろん、制度的にも社会的にも、さまざまなプロセスを経る必要がある。

本講義では、〈性〉を構成する要素について知るとともに、わたしたちが性別を持つ存在であることで受けるさまざまな制約と、豊かな可能性について検討する。その際、知識を身につけるとともに、問題を発見し、考察する力を養うことを目指す。

学習目標：

- 1) 〈性〉を構成する諸相について知る。
- 2) 社会・文化の中での〈性〉の諸相と、関連する社会問題について理解する。
- 3) 日常的に触れる機会があるメディア表象等を批判的に解釈できる。
- 4) 将来の職業経験の中で、〈性〉と、その多様性をどのように位置づけるかを考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	習得の機会がない

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	習得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		認定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	習得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：高橋準、『ジェンダー学への道案内（四訂版）』、北樹出版、2014年。

参考書：適宜、講義内で紹介します。

成績評価方法：合計3回のコメントカードの提出、講義内のロールプレイへの参加、最終コマに実施する試験を総合して判断する。

その他（メッセージ等）：テキストにはあらかじめ目を通しておいてください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	イントロダクション	クロスロードゲーム、グループワーク
第2回	ジェンダーの概念	ジェンダー／セクシュアリティ概念
第3回	ジェンダーとメディア	セクシズム、性教育、親密性の中の性暴力
第4回	女性学の視点(1)	女性学、ウーマンリブ
第5回	女性学の視点(2)	女性学、ウーマンリブ
第6回	ジェンダーと健康	リプロダクティブヘルス・ライツ
第7回	家族とジェンダー	近代家族、性別役割分業、ワークライフバランス
第8回	労働とジェンダー	職場における母性保護、パタニティヘルス
第9回	男性とジェンダー	メンタルヘルス、災害と男性、男性学
第10回	専門職とジェンダー	看護とジェンダー、ロールプレイ
第11回	外国人とジェンダー	外国籍住民への支援
第12回	リスクとジェンダー(1)	リスク、脆弱性という視点
第13回	リスクとジェンダー(2)	ジェンダーセンシティブな災害支援
第14回	リスクとジェンダー(3)	専門職の役割、ロールプレイ、セルフケア
第15回	まとめ	国試対策

区分名：倫理性を高める

科目名（英語名称含む）：倫理学（Ethics）

教員名：福田俊章

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：

1. 古来、「いかに生きるべきか」という道德の問いは人間の最も基本的な関心事のひとつであった。倫理学はこの問いを哲学的な議論の土俵で取り扱おうとする。道德の問題に出来合いの答はないにしても、しかし人間なら誰もがこの問いを我が身のこととして考えることが出来る。この授業では、各人がみずから主体的に道德上の問題を考えるにあたって、その公共的な基盤となるべきものを提供したいと考えている。人はお互いに議論の土俵を共有し合いつつ、それぞれの思索を深めて行くべきものだからである。

2. 「人間は政治的な動物（political animal）である」（アリストテレス）という有名な言葉は、そもそもは「人間はポリス（polis 都市国家）に生きる動物である」ということを意味していた。人間は共同体を作り、社会に生きる動物なのである。倫理学（ethics）という学問もまた、本来はそうした社会に生きる人間の住み習わし方（ethos）についての学であった。この授業では、人間と社会との関わりの中で生じる様々な倫理的諸問題を取り扱いながら、西欧の倫理学が道德的規範の本質についてどのように考えて来たのかを共に考えたい。

学習目標：

《一般目標》

道德的問題について、人はしばしば自分なりの直観的解答をもっている。だが、その答を当然視しているだけでは、未だ道德について考えていることにはならない。「どうして自分はそう思うのか」という理由（根拠）をはっきりさせようとすることで、「自分の頭で考える」ことが始まる。倫理学とは、こうした日常的な道德的観念に対する批判的反省である。「当たり前だと思ふことを考え直す」という問題意識に触れることによって、倫理的な思索態度を身につけたい。

《行動目標》

1 倫理理論の二類型——規範と価値

(1) 善意からする嘘をめぐるカントとコンスタンの見解の根本的相違がどこにあるのか考えられる。

(2) 倫理理論を類型化すれば、例えばどんな分類があるのか言える。

2 義務論的な倫理学——カント倫理学

- (1) カントが何をもちて道徳的行為の特質とみなしたか言える。
 - (2) 規則の普遍化可能性が行為の道徳的評価基準としてどこまで有効か考えられる。
 - (3) カント倫理学において幸福の問題が最終的にいかなる形で処理されているか言える。
- 3 帰結（結果）主義的な倫理学——功利主義
- (1) 功利主義の基本的主張が何であるか言える。
 - (2) ベンサムやミルがいかなる問題意識から功利主義を立てたのか言える。
 - (3) 行為／規則功利主義の区別が説明できる。
 - (4) 功利主義にも様々な問題点が潜んでいることが判る。
- 4 社会倫理の基底——正義と利益
- (1) 正義の中核的観念が何であるか言える。
 - (2) 社会契約の核心的主張が何であるか言える。
 - (3) 人間が社会を組織して生きることの意味について、自分なりに考えられる。
- 5 環境倫理の基礎——環境の保全と保存
- (1) 環境倫理の特質が何であるか言える。
 - (2) 「環境倫理3つの柱」とは何のことか言える。
 - (3) 地球温暖化の問題がどういう問題か言える。
 - (4) 保全主義、保存主義、そして「里山の環境倫理」とはどのような考えか言える。
- 6 総じて、こうしたことを知っただけでは倫理的に高潔な人間になれるわけではないことが判る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特定の教科書は用いないが、授業の際に適宜資料を配付するとともに、その都度参考文献の紹介に努めたい。

参考書：

篠澤和久・馬淵浩二編『倫理学の地図』ナカニシヤ出版、2010年

バジューニ、フォスル／長滝、廣瀬（訳）『倫理学の道具箱』共立出版、2012年

成績評価方法：授業への参画態度に加えて、レポートあるいは論述式の筆記試験を学期末

に課すこととしたい。レポートとするか筆記試験とするかは受講生と相談の上、決めたい。

その他 (メッセージ等) : 以前は選択科目として医学部との共通授業だった倫理学も、今は看護学部生だけを対象とした必修科目として開講されています。これまで以上に理解しやすい授業を心がけたいと思っているので、学生の皆さんも積極的に授業に参加されることを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	導入	日常道徳と倫理学
第2回	倫理理論の二類型	倫理理論の二類型、善意からする嘘、規範と価値
第3回	カントの倫理学(1)	幸福が道徳の原理にならないとされる理由
第4回	カントの倫理学(2)	規則の普遍化可能性、義務の特定
第5回	カントの倫理学(3)	人間の自由と価値、最高善と正義の実現
第6回	功利主義の倫理学(1)	功利主義の概略、利己主義と功利主義
第7回	功利主義の倫理学(2)	功利主義の思想家たち (ベンサム、J. S. ミル)
第8回	功利主義の倫理学(3)	行為功利主義と規則功利主義、功利主義と価値
第9回	功利主義の倫理学(4)	功利主義の問題点(原理の非単一性、正義の保証不可能性)
第10回	功利主義の倫理学(5)	功利主義の問題点(幸福の計算不可能性、人間的側面の軽視、道徳的動機の説明困難)、全体のまとめ
第11回	社会倫理の基底(1)	等しさの実現としての正義
第12回	社会倫理の基底(2)	正義と利益、自然法
第13回	社会倫理の基底(3)	社会契約と国家、ホッブズとロック
第14回	環境倫理(1)	環境倫理とは何か(環境倫理学3つの柱、保全と保存)
第15回	環境倫理(2)	環境倫理の実際(地球温暖化と倫理、里山の倫理)

区分名：論理的思考力を培う

科目名（英語名称含む）：自然科学（生物学）(Natural Sciences (Biology))

教員名：松岡有樹，五十嵐城太郎，西山学即

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：23時間

概要：

多様な生命現象の根底に存在する共通原理について，物質・エネルギー・情報の3つの観点から学習することによって，生命科学の基礎を統一的に理解する。

学習目標：

(1)生命の多様性と共通性について概説できる。(2)原核生物と真核生物の特徴を説明できる。(3)種々の細胞内小器官の構造と機能について説明できる。(4)細胞の観察法を理解し、その全体像を図示できる。(5)体細胞分裂および減数分裂の過程を図示し、説明できる。(6)生殖の方法と遺伝的多様性について説明できる。(7)染色体の構造と機能を概説し、その挙動について説明できる。(8)DNAの複製、転写の仕組みとタンパク質の合成が説明できる。(9)糖、タンパク質、脂質、核酸の性質・代謝について概説できる。(10)ヘモグロビンの酸素解離曲線について概説できる。(11)酵素の構造と機能について説明できる。(12)酸化リン酸化によるATPの産生及びATPの加水分解に伴うエネルギーの放出を説明できる。(13)恒常性の維持について説明できる。(14)生体防御についてその機構を理解し、説明できる。(15)生命の多様性について進化の観点から説明ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	習得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	習得の機会がない

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	習得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	習得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	習得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	習得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	習得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：Urry, L. A.ほか (2018)『キャンベル生物学 原書11版』丸善出版

Albetts, B.ほか (2016)『Essential 細胞生物学 原書第4版』南江堂

木下勉ほか (2015)『ZERO からの生命科学 改訂4版』南山堂

成績評価方法：出席状況と期末試験および提出物(レポート, スケッチ)により総合判定する。

その他 (メッセージ等)：生物学は看護学を学ぶ上でもっとも重要な基礎となります。皆さ

んの積極的な参加を期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	生物学概論(松岡)	生命とは何か、多様性と共通性
第2回	細胞・組織・器官(松岡)	細胞小器官
第3回	細胞分裂1(西山)	体細胞分裂
第4回	細胞分裂2(西山)	減数分裂、精子形成、卵形成
第5回	顕微鏡実習(松岡)	顕微鏡の構造、原理、操作法
第6回	顕微鏡実習(松岡)	哺乳類の精巣の構造と機能
第7回	顕微鏡実習(松岡)	哺乳類の卵巣の構造と機能
第8回	細胞の構造と機能(西山)	細胞膜、浸透圧
第9回	受精と発生(西山)	初期発生、器官形成
第10回	恒常性1(西山)	ホルモン
第11回	恒常性2(西山)	自律神経
第12回	免疫1(西山)	抗体、体液性免疫
第13回	免疫2(西山)	細胞性免疫
第14回	生体を構成する物質1(五十嵐)	水、脂質、核酸、炭水化物
第15回	生体を構成する物質2(五十嵐)	タンパク質
第16回	生体エネルギーの生産(五十嵐)	ATP、糖代謝、呼吸、発酵
第17回	生体エネルギーの利用(五十嵐)	筋収縮、光合成
第18回	遺伝子の本体(五十嵐)	DNA、RNA、二重らせん
第19回	遺伝子の複製(五十嵐)	複製
第20回	遺伝子の発現(五十嵐)	転写、翻訳
第21回	酵素反応(五十嵐)	基質特異性、ミカエリス・メンテン式
第22回	酸素運搬タンパク質(松岡)	ヘモグロビン、酸素解離曲線
第23回	生物の多様性と進化(松岡)	生物の分類、進化論の歴史、分子進化

区分名： 論理的思考を培う
 科目名（英語名称含む）： 数学（Mathematics）
 教員名： 岡田達也
 開講年次： 1年次，前期，必修/選択： 選択
 授業形態： 講義，単位数：2単位，時間数：30時間

概要：本講義の目的は2つある。1つは必修科目である「統計学」、「医療統計学」への橋渡しである。統計学は看護学にとどまらずあらゆる科学分野の基盤として重要であり、高等学校の課程でも数学Iにおいて「データの分析」、数学Bにおいて「確率分布と統計的な推測」を学ぶことになっている。しかし、「統計的な推測」に関しては入試に課す大学が少ない等の理由で十分な学習がなされていないのが実情と思われる。ここでは、本来高等学校で修習すべき統計学の基礎を学びなおす。

もう一つは数理的、論理的な思考に親しむことである。数学はその概念や論理を明確かつ簡潔に表すため、式や記号が多用される。このため、ややもすると暗記科目として取り組みがちになり、実際そういう学習法で失敗する学生が多い。数式や記号は実際に起こっていることを記述しているだけであり、それらを道具として状況・条件を整理し、組み立てて、筋道を立てて考えるという「論理的思考」こそが重要である。本講義では数学のさまざまなテーマを題材として、なぜ？ どうして？ と自問しながら、論理的かつ批判的に思考する能力を養う。

学習目標：

- (1) 高等学校で学習した数学の知識を発展させて身につけ、看護の分野で活用できる。
- (2) 数学の基礎学力と応用力を習得し、大学で学ぶ統計学を理解し実際にデータを活用できる。
- (3) 数学的に思考・考察する態度を身につけ、看護の分野で活用できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		単位認定に関係ない。
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定に要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。

テキスト：必要に応じてプリントを配布する。

参考書：石村園子 著「すぐわかる確率・統計」東京図書

石村貞夫 その他 著「看護系学生のためのやさしい統計学」共立出版

成績評価方法：授業の評価は、試験の得点、平常点・レポート評価点で判定される。

その他(メッセージ等)：本学部の教育目標のひとつに「さまざまな事象や現象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる」とある。本講義を通してこの目標に一步でも近づいて頂きたい。しかし、そのためには単に講義を聴講するという受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に参加して、数学する(思考する)という態度で講義に臨んで頂きたい。

授業内容(学習項目)

回数	実施日	時限	項目	内容(キーワード等)
第1～3回	4月13日 (火)	1,2,3	数の広がり	0の発明、有理数と無理数、黄金比とフィボナッチ数列
第4～6回	4月20日 (火)		集合と論理	ド・モルガンの法則、命題、命題関数、推論、
第7～9回	4月27日 (火)		場合の数、有限と無限	順列・組合せ、濃度、可算集合、非可算集合
第10～12回	5月11日 (火)		確率の概念	標本空間、数学的確率、経験的確率、公理的確率の定義
第13～15回	5月25日 (火)		確率の計算	条件付き確率、加法定理、乗法定理、事象の独立、ベイズの定理
第16～18回	6月1日 (火)		確率分布1	確率変数、確率密度関数、分布関数、期待値、分散、チェビシェフの不等式
第19～21回	6月8日 (火)		確率分布2	2項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布
第22～24回	6月15日 (火)		母集団と標本、標本分布1	正規母集団、2項母集団、母集団分布、標本分布
第25～27回	6月22日 (火)		標本分布2、推定1(点推定)	カイ二乗分布、t分布、F分布、不偏推定量、一致推定量
第28～30回	7月13日 (火)		推定2(区間推定)	点推定の考え方、母平均の推定

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：文学（literature）

教員名：澤 正宏

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期 ， 選択：選択

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：日本の近代から現代にかけての文学の流れや、代表的な文学作品（主に小説、詩歌）を学ぶことによって、歴史的・文化的な背景を理解し、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力、感性を養います。また、講義のなかでは、何回かは文学と医学との接点の問題も扱います。

学習目標：明治時代以降の文学作品を具体的に理解することで、近代以降の歴史や文化といった時代背景への知識を深めながら、作品の成立事情、構想、芸術性、文化的な価値などの理解をとおして、文学における深い人間洞察が体得できるようにする。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位

					認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会が無い

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が無い

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない（講義者が作成した資料を使用する）。

参考書：講義の都度、提示する。

成績評価方法：講義での出席、感想発表、参加態度（意見など）と、前期試験により評価。

その他（メッセージ等）：講義への積極的な参加（意見、感想など）を期待する。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	学ぶことの意味 文化の集積
第2回	森鷗外「高瀬舟」	足るを知る 安楽死 オオソリティー
第3回	芥川龍之介「歯車」	芸術至上主義 地獄 関係妄想

第4回	宮澤賢治の童話（1）	「オツベルト象」 労働と救済 怒ることの意味
第5回	宮澤賢治の童話（2）	「なめとこ山の熊」 食物連鎖 生きることと殺生
第6回	萩原朔太郎の詩	近代詩を極めた表現 腐敗感覚と万人の孤独
第7回	金子みすゞの児童詩	「みんなちがってみんないい」とは 仏教的な表現
第8回	近代文学から現代文学	主知主義の文学 労働者の文学 現代都市の出現
第9回	ハンセン病の文学	隔離政策 ワゼクトミー 病気と差別
第10回	中原中也の詩（1）	日本一の「空」の詩人 「空」の表現の本質
第11回	中原中也の詩（2）	詩「ひとつのメルヘン」 極められたダダイズム
第12回	原爆被災の文学	原民喜「鎮魂歌」 原爆を被災した死者への共感
第13回	中城ふみ子の短歌	乳癌で亡くなった女性歌人の歌の特色
第14回	戦後文学（主題など）	戦後社会の二重構造 高度資本主義経済
第15回	『苦海浄土』を読む	日本公害病の原点 日本で最高の小説と評価

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：音楽

教員名：高橋 裕之

開講年次：1年次，学 期：2021年度 集中 ，必修／選択：選択

授業形態：講義実習 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：

日本において一般的に音楽とされるものは、日本伝統音楽を除けば西洋音楽のシステム（音階や拍節法など）を基盤に成り立っています。小・中学校、高等学校で経験してきた音楽の源流とは何でしょうか。それは西洋（ヨーロッパ）の音楽なのです。皆さんが学んできた学校の音楽室には当たり前のようにピアノがおいてあったでしょう。それがその証拠です。本講義ではこうした西洋音楽を中心に音楽的知識を深めるとともに、実際にいくつかの楽器を演奏して音楽に親しみます。まず、名作と呼ばれる音楽作品の鑑賞を通じて、西洋音楽に対する理解の裾野を広げていきましょう。次に、歌唱、リコーダー（アンサンブル）、ボディーパーカッションなどの実演を通じて自身で音楽を表現することの喜びを味わいます。ゲストには、日本伝統音楽の演奏家を招く予定です。（スケジュールの都合で実施できない場合もあります）。

コロナ禍により音楽のあり方は大きく変わらざるを得なくなってきました。無観客ライブ、コンサートなど、そのあたりも考える時間が取れば面白いと思っています。

歌唱及びリコーダーは飛沫感染のリスクが高いものであるため行わない可能性があります。その場合講義内容の変更もあり得ます。

学習目標：

一般目標

音楽に触れることで感性はどう磨いていくか？。本講義のテーマの一つです。それを探る「鑑賞」と「実演」これら二つを柱として、感性を磨いていきましょう。また、音楽をする際に最も重要な『聴く』という行為について考えていきましょう。積極的に音楽を『聴く』。この行為を普段の生活の中で『傾聴』することに応用すれば、コミュニケーションスキルを養うことにも繋がります。

学習目標：1）音楽的知識や見識を広めることで教養を高めることができる。

2）表現する楽しみを得ることができる。

3）能動的に音楽を『聴く』ことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	<p>独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。</p>		の要件である
		④	<p>自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</p>		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
<p>自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。</p>					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	<p>人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。</p>	-	修得の機会がない
		③	<p>人々の社会的背景を理解して尊重することができる。</p>		
		④	<p>看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</p>		
		⑤	<p>望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。</p>		
2)	チームでのコミュニケーション	①	<p>人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。</p>	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	<p>チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。</p>		
		③	<p>チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。</p>		
		④	<p>人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。</p>		
4. 知識とその応用					
<p>看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。</p>					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑥	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑦	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑧	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑨	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		②	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		

			コミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解が単位認定の要件である
		③	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト : 特定のテキストは使用しない。講義中に配布するプリントや楽譜にて。

参考書 : 特定の参考書は使用しない。参考文献については講義中に指示。

成績評価方法 : 出席、レポート（鑑賞の感想含む）、講義内容の理解と実演への関わり方など総合的に評価する。

その他 : ①ソプラノ・アルトリコーダーどちらか一方を所持していることが望ましい。
無い方は、初回講義で相談してください。

②使用教室やゲストの都合により講義内容が前後することがある。

③スマートフォンもしくはタブレット所持者は、リコーダーが出来ない場合、鍵盤アプリをあらかじめダウンロードしておく。詳細指示します)

教員から学生へメッセージ :

音楽を楽しみ、共に感性を磨きましょう。音楽が好きという気持ちがあれば実技が苦手な人でも歓迎します。(使用教室の都合などにより内容が前後する場合があります。その場合、予め連絡します。)

授業内容(学習項目)

夏期 集中講義で3日間

項目		内容(キーワード等)
第1回	ガイダンス 音楽=西洋音楽?	講義の進め方 評価方法 日本における音楽とは?
第2回	西洋音楽とは?~名曲とともに歴史を辿る~	クラシック音楽の魅力や黒歴史?を知る
第3回		クラシック音楽がポピュラー音楽にもたらしたもの
第4回	リコーダー アンサンブル	様々な楽曲を演奏してみる 表現とは 言葉とメロディ 歌詞
第5回	ハンドベル(1)	ハンドベルを楽しもう 和音
第6回	オペラ~オペラを楽しむ~【鑑賞】	オペラの歴史と魅力について
第7回		オペラ制作を通じて組織について考える
第8回	ボディーパーカッション(1)	ボディーパーカッションを楽しもう
第8回	ハンドベル(2)	ハンドベルを楽しみ 発表をしてみよう
第9回	オペラ(2)~オペレッタを楽しむ~【鑑賞】	オペレッタの魅力について
第10回		
第11回	日本音楽<<特別講師>>【鑑賞】	ゲスト 箏奏者による生演奏 都合がつかない場合は、ボディーパーカッション
第12回	アンサンブル	リコーダー、ハンドベル、(ボディーパーカッション)を駆使して一つの作品を作り上げよう。 ミニコンサート コロナ禍の表現者の色々
第13回	フラッシュモブの実験をしてみよう	
第14回		
第15回	本当に音楽には国境がないのか?	西洋音楽という視点から異文化理解について考える

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：体育Ⅱ（Physical EducationⅡ）

教員名：杉浦弘一

開講年次：1年次，学 期：2020年度 前期，必修／選択：選択

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：

運動（スポーツ）やトレーニングは適切に行えば身体に良い影響をもたらすが、不適切な方法で行えば悪影響を及ぼすこともある。本講義では、運動（スポーツ）を行っている時に身体でどのようなことが起きているのか、運動（スポーツ）をどのように実践していけばいいのかなど、運動が身体に及ぼす効果（影響）や運動の方法について概説する。

学習目標：

<一般目標>

人間が運動やスポーツを実践することができる仕組みについて理解するとともに、運動やスポーツが身体に与える効果（影響）について理解できる。

<行動目標>

運動（スポーツ）や身体活動がもたらすメリット・デメリットを理解し、運動を実践する基礎を作る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	① 個人情報取り扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発 と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。 (学部コースツリー参照)		
1)		①	感性を高める科目		

	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③ 論理的思考能力を高める科目			
		④ 表現力を培う科目			
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目		●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 人間の理解を深める科目			
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目			
		④ 看護の基本となる科目			
		⑤ 看護実践の基盤となる科目			
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目		-	修得の機会がない
		② 看護の実践			
		③ 看護を統合する科目			
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。		△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。			
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。			
		④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。			
		⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。			
		⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。			
		⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。			
		⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。			
6. 地域社会への貢献					

(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない（必要な資料は授業時に配布する）

参考書：「運動生理学」「スポーツ医学」関係の書籍など

成績評価方法：筆記試験、授業への取組みなどにより総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：授業への積極的な参加を必須とします。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	運動が身体に及ぼす影響①	総論（健康）
第2回	運動が身体に及ぼす影響②	各論（筋肉、呼吸・循環、代謝）
第3回	運動プログラムの基本的原理・原則①	筋肉の収縮
第4回	運動プログラムの基本的原理・原則②	エネルギー代謝
第5回	運動プログラムの基本的原理・原則③	運動の効果を得るための原則

	理・原則③	
第6回	運動プログラムの基本的原理・原則④	運動プログラムの立て方
第7回	運動プログラムの基本的原理・原則⑤	ウォーミングアップとクーリングダウン
第8回	暑熱環境下での運動と水分補給①	熱中症と運動
第9回	暑熱環境下での運動と水分補給②	水分補給
第10回	運動と疲労・疲労回復①	疲労のメカニズム
第11回	運動と疲労・疲労回復②	疲労回復
第12回	体格と運動処方①	体格の評価
第13回	体格と運動処方②	体格と運動
第14回	運動と生体防御機構	運動と免疫
第15回	全体のまとめ	全体の振り返りと確認

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：行政と医療・福祉・保健

(Administration, health care, welfare and health)

教員名：松本喜一

開講年次：1年次，学期：2021年度 前期，必修/選択：必修

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：行政が行う、基本的な社会福祉の制度を分野ごとに学ぶ。また、核分野での医療保険関連事業を学ぶ。

- 学習目標：1) 社会福祉の大枠を理解する。
2) 社会福祉の行政機能を理解する。
3) 行政政策・制度を地域として習得する。
4) 医療保険と福祉制度との総合化を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	△	修得の機 会がある が、単 位認定に 関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセス メントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康と社会保障制度 3

「社会保障・社会福祉」2021年度版

参考書： 適時支持する

成績評価方法： 試験により評価を行う。

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	社会保障制度 1	社会保険 公的扶助
第2回	社会保障制度 2	公的扶助
第3回	社会保障制度 3	社会福祉の概略
第4回	社会福祉の法制度 1	社会福祉法

第5回	社会福祉の法制度2	福祉6法
第6回	社会福祉の法制度	社会福祉の財政・組織と実施体制・従事者と担い手
第7回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向1	現代社会の変化
第8回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向2	社会保障・社会福祉の動向
第9回	医療保障1	医療保障制度の沿革
第10回	医療保障2	医療保障制度の構造と体系
第11回	医療保障3	健康保険
第12回	医療保障4	国民健康保険
第13回	医療保障5	高齢者医療制度
第14回	医療保障6	保険診療のしくみ
第15回	医療保障7	公費負担医療・国民医療費

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：社会と法（日本国憲法を含む）（Society and Law :Japanese Constitutional Law)

教員名：藤野美都子

開講年次：1年次 学 期：2021年度 前期 選択

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：

※養護教諭2種免許取得を希望している学生は必ず選択してください。

憲法は、権力担当者が権力を濫用し、人々の基本的人権を侵害することがないように権力を規制するものである。本講義は、日本国憲法を対象とし、憲法が保障する基本的人権および人権を保障するための枠組みについて学ぶ場を提供する。さらに、具体的な事例を通して、憲法が守られ人権が保障されているか否かについて、受講生自らが考えられる機会を設けたい。

学習目標：

一般目標

(1) 法的な物の見方（リーガル・マインド）および法を知り使いこなす力（リーガル・リテラシー）を身につける。

(2) 憲法学を通して社会に対する理解を深め、能動的市民としての力を身につける。

行動目標

(1) 憲法とは何かについて理解する。

(2) 日本国憲法の人権保障システムについて説明できる。

(3) 実社会において、基本的人権が保障されているか否か判断できる。

(4) 基本的人権が侵害されている場合の権利救済方法について説明できる。

(5) 日本の統治機構について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	基盤となる態度、スキルを

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

使用しない。

ただし、日本国憲法の条文を準備すること（入手方法については、開講時に説明する。）

参考書：

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第7版）』岩波書店・2019年

植野妙実子『基本に学ぶ憲法』日本評論社・2019年

渋谷秀樹『憲法（第3版）』有斐閣・2017年

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』有斐閣・2019年

成績評価方法：

授業への参画態度（コメントペーパーによる評価）40点および提出課題の評価40点（小課題10点と判例研究30点）を予定しているが、開講時に受講生と相談の上決定する。

その他（メッセージ等）：

資料や映像を使い、一定の知識を共有した後、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、憲法を学ぶ上で、社会に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて日々情報を収集し、社会に関する理解を深めていただくことを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	講義案内 憲法とは何か	講義案内 ハンセン病隔離政策から考える憲法
第2回	憲法の誕生①	日本国憲法の制定過程①
第3回	憲法の誕生②	日本国憲法の制定過程②
第4回	日常生活と憲法①	新型コロナウイルス感染症から考える憲法
第5回	国民主権と象徴天皇制①	天皇の退位
第6回	国民主権と象徴天皇制②	女性天皇
第7回	平和主義①	9条と安全保障関連法
第8回	平和主義②	平和構築に対する国際貢献
第9回	人権の享有主体	外国人の基本的な人権の保障
第10回	自己決定権①	生殖補助医療の規制

第 11 回	自己決定権②	信仰を理由とする輸血拒否
第 12 回	日常生活と憲法②	夫婦同氏の原則について考える
第 13 回	法の下での平等①	女性差別撤廃条約と日本の男女平等
第 14 回	法の下での平等②	男女平等を実現するためのポジティブ・アクション
第 15 回	表現の自由	ヘイトスピーチの規制
第 16 回	信教の自由と政教分離	内閣総理大臣の靖国神社参拝
第 17 回	人身の自由①	被疑者・被告人の権利
第 18 回	人身の自由②	死刑制度
第 19 回	婚姻の自由	同性婚
第 20 回	生存権	日本の貧困問題と社会保障制度
第 21 回	教育権	教育権の所在
第 22 回	日常生活と憲法③	授業料の無償化について考える
第 23 回	労働権	労働時間規制と過労死問題
第 24 回	国会	二院制：参議院の存在意義
第 25 回	選挙権の平等	投票価値の不平等
第 26 回	内閣	国家緊急権
第 27 回	裁判所	司法制度改革と裁判員制度
第 28 回	財政	財政赤字と世代間の公平
第 29 回	地方自治	沖縄普天間基地の移設
第 30 回	憲法改正	憲法改正問題について受講生全員で考える

区分名： 人体の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：人体解剖生理学Ⅰ（Human anatomy and physiologyⅠ）

教員名： 太田昌一郎 挟間章博 永福智志 浄土英一 高橋和巳 勝田新一郎

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期後期 ，必修

授業形態：講義演習 ，単位数：3単位 ，時間数：45時間

概要：正常な人体の構造と機能を理解する。

学習目標：

- ① 人体の基本構造を理解する。
- ② 骨の構造と機能を理解する。
- ③ 骨格筋の構造と機能を理解する。
- ④ 神経系の構造と機能を理解する。
- ⑤ 心臓の構造と機能を理解する。
- ⑥ 血管の構造と機能を理解する。
- ⑦ 呼吸器の構造と機能を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

医療系学生のための解剖見学実習ノート 千田隆夫、小村一也 著 丸善出版

参考書：講義中に提示する。

成績評価方法：試験期間中に実施する筆記試験、夏季に実施する解剖見学実習レポートを等分に評価する。

その他（メッセージ等）：講義の進め方は内容が前後することがある。後学期に組織学とともに前学期内容の復習も行う。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	生命の定義とその形	遺伝子、細胞、核、細胞内小器官、細胞膜
第2回	水、細胞膜	水素結合、イオン、チャネル、静止膜電位
第3回	細胞、組織、器官	細胞の構造、細胞間質
第4回	人体の基本構成と名称	正中線、矢状面、頭頸部、体幹、四肢
第5回	骨組織	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨単位、骨形成

第6回	骨格系	頭蓋骨、体幹骨、四肢骨、関節、靭帯
第7回	筋組織	筋細胞、収縮タンパク質、神経-筋連関
第8回	骨格筋系	頭頸部の筋、体幹の筋、四肢の筋
第9回	体液	細胞内液、細胞外液、体腔液、リンパ液
第10回	血液	血球、血漿、血液凝固、血液型
第11回	循環器の構造	心臓、大循環系、微小循環系
第12回	循環器の機能	心機能曲線、左室圧容量曲線、心電図
第13回	呼吸器系	鼻、喉頭、気管、気管支、肺、気道、呼吸部
第14回	神経系の構造と機能①	末梢神経、自律神経
第15回	神経系の構造と機能②	中枢神経、情動行動、視覚、聴覚、平衡感覚

区分名：人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：生化学（Biochemistry）

教員名：森 努

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期 ，必修/選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：システムとしての人体を構成する物質の構造と相互作用を理解し、看護の現場において病態生理を把握する際に必要となる生化学の基礎知識を習得する。

学習目標：1) 遺伝子の機能・構造と、その異常に伴う疾患の成り立ちを説明できる。

2) 生体物質の構造・機能と代謝調節、およびその異常に伴う疾患の病態生理を説明できる。

3) ホルモンの種類と機能を学習し、内分泌疾患の成立機序を説明できる。

4) 悪性腫瘍の発症機序と治療手段について理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	〃

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会がない

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：系統看護学講座（医学書院） 人体の構造と機能〔2〕生化学

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：定期試験結果・課題成績を総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：生化学は現代医学の中心領域です。生化学の視点を持つことは、現場で日常的に見かける生活習慣病や悪性腫瘍を理解するために必要です。要点を押さえた効率的な勉強を心がけて下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	生化学総論	遺伝子・細胞・細胞内小器官・生体物質
第2回	代謝と酵素	栄養素・代謝経路
第3回	糖質の構造と機能	糖質の種類・単糖・二糖・多糖
第4回	糖質代謝	糖質の消化吸収、解糖系・糖新生
第5回	脂質の構造と機能	脂質の種類・脂質各論・リポタンパク
第6回	脂質代謝	脂質の消化吸収、中性脂肪・コレステロール

第7回	タンパク質の構造と機能	アミノ酸とタンパク質の構造・機能
第8回	タンパク質代謝	タンパクとアミノ酸の消化吸収・代謝経路
第9回	ポルフィリン代謝と異物代謝	ヘムの代謝と異常・黄疸、解毒経路
第10回	遺伝子と核酸	ヌクレオチド・DNA・RNA
第11回	遺伝子複製・修復・組換え	DNA複製・DNA修復・修復異常
第12回	転写	転写・転写調節・エピジェネティクス
第13回	翻訳と翻訳後修飾	翻訳・翻訳後修飾
第14回	シグナル伝達	シグナル伝達機構・ホルモン・内分泌疾患
第15回	がん	癌の分子生物学・細胞周期

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護学の基本Ⅰ（Nursing Fundamentals Ⅰ）

教員名：4月着任教員

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期 ，必修

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間（2時間×15回）

概要：看護学の導入として、また専門領域を学ぶ上での土台となる科目である。ここでは、看護の責務、看護の歴史、看護理論、看護の対象など様々な角度から看護を考え、理解を深め、看護職の将来を展望し、社会に求められる専門職としての看護について、グループワークやポートフォリオ、パフォーマンス課題を用いて学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目です。

学習目標：看護学の概要を理解し、専門職としての看護についての理解を深める。

行動目標

1. 看護の概念、定義、看護の対象について理解する。
2. 看護の責務について法的側面から理解する。
3. 看護の歴史の変遷と看護理論について理解する。
4. 看護職の将来を展望し、社会が求める看護について考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	基盤となる態度、習慣、スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：志自岐康子他著：ナーシング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論、メディカ出版

参考書：F.ナイチンゲール著、湯楨ます他訳：看護覚え書き、現代社

ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます他訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会

その他授業内で紹介します。

成績評価方法：筆記試験、授業の出席状況と授業の参加態度、パフォーマンス課題を総合して評価します。

その他（メッセージ等）： 看護の歴史、看護理論、看護の魅力、看護が社会から期待されていることを理解することで、看護学を学ぶ事の意識を高めて欲しいと思っています。

授業内容(学習項目)

回	項 目	内 容 (キーワード等)
第1回	オリエンテーション	これから看護を学ぶことについて
2	看護の誕生と発展	看護の誕生～近代～現代までの看護
3	日本における看護の変遷	日本における看護の歴史
4	看護の対象、看護の主要概念	統合体としての人間理解と看護の定義
5	ライフサイクルと健康	健康の概念、マズローの欲求階層、発達課題
6	看護理論の理解（1）	看護実践事例を提示し、 実践と理論の関係について、グループワークで プレゼンテーションを行い理解を深める F.ナイチンゲール、V.ヘンダーソン、ペブロー、オム、トラベルビー
7	看護理論の理解（2）	
8	看護理論の理解（3）	
9	看護理論の理解（4）	
10	看護の役割と倫理	看護の具体的役割と機能、倫理について
11	看護の法的側面	保助看法、看護関連法規
12	保健・医療福祉の概念と看護	保健・医療・福祉サービスの内容と看護
13	職業としての看護と教育	看護教育体制、専門・認定看護師、特定看護師
14	専門職としての看護	国際看護・災害看護の概念、これからの看護
15	看護の基本Iのまとめ	パフォーマンス課題の発表と講義のまとめ

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：コミュニケーションに関する技術（ Communication skills ）

教員名：丸山育子 他

開講年次：1年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：看護場面におけるコミュニケーションは、単なる情報のやりとりだけでなく、情報に伴う意味や感情も重要となります。その重要性を理解し、援助的人間関係が形成できるようなコミュニケーションスキルを学びます。このとき、重要な位置を占めるのが、自分自身のコミュニケーションの特徴や価値観を知ることです。その上で、各々が看護場面で援助的人間関係を築けるようにそれぞれが考えます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

【一般目標】

看護場面におけるコミュニケーションの特徴を理解し、援助的人間関係に築くためのコミュニケーションスキルについて学ぶ。各自のコミュニケーションの特徴や価値観を踏まえ、今後援助的人間関係を築くために各自が身に付けるスキルは何かを考察する。

【行動目標】

1. 看護場面におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
2. 援助的人間関係を築くためのコミュニケーションスキルを理解する。
3. 各自のコミュニケーションの特徴や価値観を自分自身で分析して知る。
4. 今後、看護場面において援助的人間関係を築くために自分自身に身に付けるコミュニケーションスキルについて考察する。
5. 模擬の看護場面でコミュニケーションスキルを使い実践する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度・スキルを示せることが単位認定の条件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の条件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	④のみ ○	基盤となる態度・スキルを示せることが単位認定の条件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	
--	--	---	-------------------------------------	--

テキスト：指定しません。資料を配布します。

参考書：適宜授業で紹介します。

成績評価方法：原則、筆記試験（50%）、レポート（30%）、授業への参加態度（20%）により、総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：自分をみつめる時間となります。いいことも辛いと感じることもあるかもしれません。それらすべてが、これから向き合う看護場面で役立ちます。

状況に応じて授業内容が変更になることもあります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	コースガイダンス	科目の概要と進め方、グループ分け コミュニケーションとは何か？
第2回	コミュニケーション	コミュニケーションで重要なこと 看護場面におけるコミュニケーションの特徴
第3.4回	自分自身の価値観	身近にある場面から自分自身の価値観を考える
第5～7回	自分自身のコミュニケーションの特徴	身近にある場面からと看護場面から
第8.9回	感情労働	看護師の感情労働
第10～12回	看護場面のコミュニケーションスキル	看護場面とコミュニケーション技法
第13～14回	看護場面におけるコミュニケーションの実際	実際の看護臨床場面でのコミュニケーションの話を看護師から聞く
第15回	自己のコミュニケーションの振り返り	自己のコミュニケーションを振り返り、今後活かすために

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護技術とアセスメントⅠ（Nursing skills and assessment as the foundation nursing practiceⅠ）

教員名：川島理恵 丸山育子 林紋美 蓬田美保 他

開講年次：1年次，学 期：2021年度 通年 ，必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：3単位（講義1単位・演習2単位） ，時間数：45時間

概要：看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 看護における看護技術の重要性について説明することができる。
2. 人間の休息と睡眠の意義について説明することができる。
3. 基本的な環境調整の基本技術を実践することができる。
6. 看護における感染予防の重要性について説明することができる。
7. 医療の場における手洗いの技術を実践することができる。
8. 看護者が動作の基本を習得する必要性を説明することができる。
9. 関節の可動域や筋力の状態を把握するための基本技術を実践することができる。
10. 移乗・移動動作の基本技術を実践することができる。
11. 栄養や排泄が人間の健康な生活に与える影響について説明することができる。
12. 経口からの食事摂取に向けた看護の基本技術を実践することができる。
13. トイレでの排泄に向けた看護の基本技術を実践することができる。
14. 身体の清潔保持が人間の健康な生活に与える影響について説明することができる。
15. 皮膚・粘膜・頭髮・衣類の清潔を保つための基本技術を実践することができる。
16. 演習を通して対象の状況に近づき、看護者としてのあり方を考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：テキストの指定はありません。

参考書：配布資料に記載します。

成績評価方法：評価配分は、筆記試験(45%)、実技試験(45%)、授業への取り組み(10%)を基本としますが、最終的に担当教員間で検討して総合して評価します。

その他（メッセージ等）：

対象に沿った看護を実践するためには、対象の状態をアセスメントする能力と技術力が必要です。技術を習得するには、繰り返し練習することが必要です。学生同士で互いに刺激しながら、また、教員も活用しながら共に学んで行きましょう。

単元の順序は、状況に応じて変更する場合があります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1～3回	ガイダンス 感染予防	看護技術とは 日常的手洗い
第4～6回	関節の動きと筋力	関節可動域の観察、筋力の観察
第7～9回	移乗・移動動作の基本①	ボディメカニクス、ベッド上での体位変換
第10～12回	移乗・移動動作の基本②	車椅子やストレッチャーによる移送
第13～15回	移乗・移動動作の基本③	リネンのたたみ方、環境調整、ベッドメイキング
第16～18回	栄養	経口による食事摂取に向けた援助、食の楽しみ
第19～21回	口腔内の清潔	口腔内の清潔、含漱、誤嚥
第22～24回	休息と睡眠①	寝具の交換
第25～27回	衣生活と健康	対象に応じた衣類の選択、衣類の交換
第28～30回	皮膚の清潔①	皮膚の構造と機能、洗浄剤の効果、拭き取りによる清潔保持の特徴、部分清拭
第31～33回	皮膚の清潔②	洗浄による清潔保持の特徴、頭皮や頭髮の清潔
第34～36回	皮膚の清潔③	浴することによる清潔保持の特徴、入浴、足浴、

		手浴
第 37～39 回	皮膚の清潔④	援助を提供する看護者の責任や望まれる態度、 全身の清拭
第 40～42 回	排泄	排泄の自立に向けた援助、床上排泄の援助
第 43～45 回	陰部・殿部の清潔	陰部の清潔、尿路感染